

いつでもどこでもメールをチェック 

# 電子メールで選ぶ 携帯情報端末

屋外で電子メールを読んだり書いたりするのに、ノートパソコンと携帯電話などのセットを持ち歩くのでは重いし、大事になりすぎる。そこで注目したいのが電子メール機能をサポートしたPDA（携帯情報端末）だ。電子メールを扱うのにいろいろとPDAでは制限があるが、外でちょっと電子メールを読みたいときや、簡単な返事を書いたりするには、PDAが威力を発揮する。 山本雅史

Product Showcase



# 携帯情報端末で電子メールはここまで使える

電子メールを扱えるPDA(携帯情報端末)でもいろいろなレベルがある。今回紹介するのは、電子メールを受信するときに制限の少ないPDAだ。文字数制限や添付ファイルの制限があるものは、さまざまなユーザーから電子メールが送られてくることを考えるとちょっと使えない。やはり、直接PDAに電子メールを送ってくるのではなく、ユーザーが外部から電子メールボックスにアクセスして電子メールを読み書きする方式が一番便利だろう。直接PDAにメッセージを届けるシステムでは、文字数の制限などがあって使いにくい。普通にパソコン相手にメールを送る(受ける)のと同じ感覚で使えるものを選びたい。

## ① 今や電子メールは必須!

携帯電話の普及により、いつでもどこでも電話がかかってくるようになった。しかし、実際にこういう時代になると不便なことも多くなってきている。会議中に電話がかかったり、忙しいときに大した用件でもない電話がかかることも多くなっている。これでは電話を受ける側はたまったものではない。人の都合を考えずにかかってくる電話というのは結構面倒くさいものだ。

利用者自身がコントロールできるコミュニケーション手段として注目を浴びている電子メールを携帯電話と一緒に使えるようになると、さまざまな連絡を利用者が都合のいいタイミングで処理できるようになる。もちろん、会社や家などで電子メールを使っている人なら、ちょっと時間が余ったときにアクセスして電子メールを読み、あとで返事を書いて送るということもできるだろう。このように、利用者が都合のいいようにコミュニケーションをコントロールできる電子メールは、いまやPDAの最重要機能と言えるだろう。

## ② 見た目か、重さか、PDAはどう選ぶ?

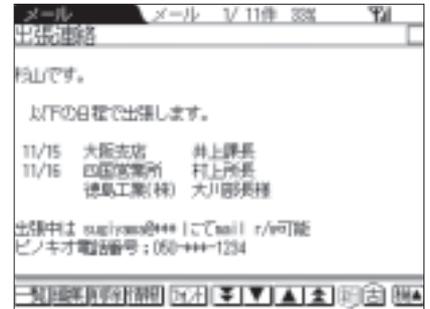
最近発売されているPDAは、電子メールをサポートしているが、メーカーや機種によってさまざまな形や機能を持っている。

まず、最初に注意しなければならないのは、電子メール機能と言ってもパソコン通信しかサポートされていない機種もあるということだ。やはり、インターネットが当たり前になっている時代だから、インターネットの電子メールをサポートしていることは当然だ。

また、携帯電話と融合したもののやノートパソコン型になったものなどいろいろある。このあたりはユーザーの好みになってしまうが、持ち歩くことを考えると、できるだけ小さく軽いものという条件が重要になってくる。しかし、小型化されたものは、キーボードが付いていないため、電子メールの返事を書くのがペン入力などになっていて使いにくい。

一日中外に出ている人ならキーボードが付いたもので電子メールの返事をその場で書く必要があるが、一般的な使いかたは出先で電

メール受信画面の例(ビノキオ)



子メールをチェックし、必要ならば相手に電話をかけるくらいで、ほとんどの用件は会社や家に戻ってから返事を書いてもらえばいいだろう。こうなると、ポケットに入るサイズのPDAは電子メールビューアがメインで、書くほうはその次となる。

## ③ 最低限押さえておきたい機能は?

電子メール機能をサポートしたPDAで、もっとも重要なのは、受信した電子メールをメールボックスに残しておけるのか、電子メールを読むときにヘッダーだけを受信してからあとで本文をダウンロードできるのかなどだろう。

この機能は、PDAだけでなく、電子メールサーバー側にもかかわってくる。いったん受信した電子メールがすべてPDAにダウンロードされるのでは、デスクトップコンピュータで電子メールを管理しているユーザーにとっては不便で仕方ない。さらに、メーリングリストなどに入っているユーザーは膨大な電子メールをPDAでも受信することになる。これでは、時間もかかるし、不要な電子メールもダウンロードしなければならない。さらに、メモリーの少ないPDAでは大量の電子メールを受信するとすぐにメモリー不足に陥ってしまう。このようなことをまずはチェックすべきだろう。

もう一つは、インターネット電子メールでサポートされているような同報メールの機能が使えるかどうかだ。メールを送るときに複数のメールアドレスを指定したり、CCメールの指定ができなくては使い勝手が非常に悪い。さらに、アドレス帳でサポートされていけば、かなり便利になる。

### 電子メール機能10項目

1. インターネット電子メールのサポート
2. 添付ファイルは送受信できるか
3. アドレス帳に電子メールのアドレスが入れられるか
4. 受信したメールはメールサーバーに残しておくか
5. ヘッダーだけを受信できるか
6. デスクトップコンピュータとデータ連携はできるか
7. インターネットと通信を行ってもすぐに電源が切れないか
8. 同報メールが送れるか
9. 電子メールが保存できる量は
10. 受信したメッセージを簡単にPDAのスケジュール帳や住所録、メモ帳に転送できるか



# 今が買い!?

## 最新携帯情報端末スペックガイド

### パワーザウルス

MI-506DC

PDAとしてもっとも売れているのが、シャープのザウルスだろう。パワーザウルスはカラー液晶を採用した、ある意味で日本版PDAの完成型と言える。電子メールについても非常によく考えられている。外部のインターネットプロバイダーとの連携だけでなく、社内のイントラネットにあるマイクロソフトメールなどの電子メールサーバーと接続して電子メールの送受信が行える(オプションソフトが必要)。さらに、添付ファイルとして

JPEG / GIFフォーマットのグラフィック、エクセル95のXLSファイル、パソコンのワープロソフト(RTFフォーマット)の送受信もサポートしている。もちろん、これらのデータはパワーザウルスのアプリケーションで読み込めたり、作ったものをこれらのフォーマットにして送信することもできる。しかし、これだけの機能がそろっているだけあって、バッテリーでの使用時間の短さが気になる。



① キーボード接続端子



② PCカードスロット



③ 左からカメラ、シリアルポート、赤外線通信ポート、AC電源入力、モジュラー端子

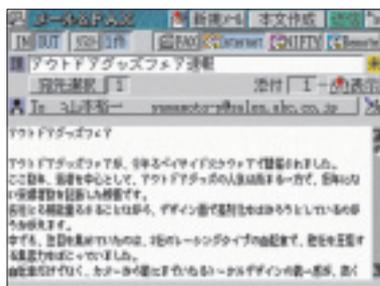
発売元 : シャープ株式会社  
 標準価格 : 168,000円  
 実勢価格 : 123,000円前後  
 問い合わせ : 0120-303-909  
 URL : <http://www.sharp.co.jp/sc/excite/zaurus/zaurus-index.htm>  
 寸法 : 約161(W)×約90(D)×約23(H)mm(カメラ部除く)  
 重量 : 約400g

内蔵モデム	33.6Kbps	バッテリー駆動時間	8H
内蔵メモリー	6MB	インターネットウェブの閲覧	
PCとの連携		サーバーにメールを残す	
PIAFS対応	オプション	添付ファイル受信	
漢字の送受信		画像添付ファイルの閲覧	
メール返信機能		アドレス帳からの宛先人選択	
ヘッダー受信		メッセージの文字数制限	約64KB
同報メール送信			

Product Showcase



④ 画面はモノクロだがパワーザウルスに負けない高性能の新製品ザウルスポケット MI-110M  
 標準価格 : 83,000円





注目の新製品

# Mobile Gear

# MC-MK32

電子メール機能に特化したモバイルギアでは、さまざまなフォーマットを採用している。MIME形式(BASE64)やUUENCODE形式のサポートでバイナリメールの送受信ができる。この機能を利用して、JPEG、BMP、GIF、TIFFの各形式の画像を専用の画像ビューアソフトで見ることができる。インターネットの電子メールサーバー(SMTP、POP3)以外に、イントラネット用のメールサーバーとしてロータスのCC:MAILなどにも対応している。



① 左から赤外線通信ポート、シリアルポート



② 左からPCカードスロット、モジュラー端子



発売元 : 日本電気㈱  
 標準価格 : 83,000円  
 実勢価格 : 取材時未発売  
 問い合わせ : 03-3798-2088  
 URL : <http://www.nec.co.jp/mg/>  
 寸法 : 245(W)×122(D)×24.5(H)mm  
 重量 : 約550g

内蔵モデム	14.4Kbps	バッテリー駆動時間	約16H	1
内蔵メモリー	6MB	インターネットウェブの閲覧		2
PCとの連携	オプション	サーバーにメールを残す		
PIAFS対応		添付ファイル受信		
漢字の送受信		画像添付ファイルの閲覧		
メール返信機能		アドレス帳からの宛先人選択		
ヘッダー受信		メッセージの文字数制限	約1MB	
同報メール送信				

1 ニッケル水素専用充電電池の場合(アルカリ単3では約30H)  
 2 テキスト情報のみ



③ これは従来機種種のMC-MK22

# BrainPad TiPO

# BP-2111-00

OSに日本で開発したB-Tronを採用している(準拠)珍しい製品だ。ユーザーインターフェイスはちょっと戸惑うが、慣れてしまうとマルチウインドウで使いやすい。電子メールに関しては、SMTPやPOPなどをサポートしている。通信相手は、インターネットの電子メールサーバーだけだ。もちろん、電子メールをサーバー上から削除するかどうかなども選択できる。しかし、エクセルやワープロなどのファイルが添付ファイルとして送信されてきても使用できない。



① 左から赤外線通信ポート、シリアルポート



② PCカードスロット

発売元 : セイコーインスツルメンツ㈱  
 標準価格 : 99,800円  
 実勢価格 : 80,000円前後  
 問い合わせ : 043-211-1703  
 URL : <http://www.sii.co.jp/js/bas/>  
 寸法 : 170(W)×100(D)×20(H)mm  
 重量 : 約300g

内蔵モデム	なし	バッテリー駆動時間	50H	2
内蔵メモリー	1	インターネットウェブの閲覧		
PCとの連携	オプション	サーバーにメールを残す		
PIAFS対応		添付ファイル受信		
漢字の送受信		画像添付ファイルの閲覧	3	
メール返信機能		アドレス帳からの宛先人選択	3	
ヘッダー受信		メッセージの文字数制限	約30KB	
同報メール送信				

1 ROM 8MB、RAM 6MB、フラッシュROM 8MB  
 2 アルカリ単3乾電池2本  
 3 97年12月末のオンラインバージョンアップ(無償)により対応。



注目の  
新製品



# Mobile Gear

# MC-CS13



① 赤外線通信ポート



② 左からモジュラー端子、シリアルポート



③ これは従来機器のMC-CS12



④ 左からPCカードスロット、AC電源入力



ウィンドウズCEを採用していることで、UUENCODE形式の添付ファイルをサポートしている。これによりバイナリーファイルが送受信できる。データ連携機能もウィンドウズ95やNTなどとは非常に簡単にシンクロ化することができる。面白いのはパソコンにインストールするメールゲートウェイソフトだ。パソコンにこのソフトをインストールしてモデムでモバイルギアからアクセスすると、会社のLAN上の電子メールサーバーと通信でき、外出先からモバイルギアで、会社内にいるかのような感覚で電子メールの送受信をすることができる。

発売元 : 日本電気㈱  
標準価格 : 94,000円  
実勢価格 : 取材時未発売  
問い合わせ : 03-3798-2088  
URL : <http://www.nec.co.jp/mg/>  
寸法 : 175(W) x 97(D) x 27(H)mm  
重量 : 約400g

内蔵モデム	14.4Kbps	バッテリー駆動時間	約22H 2
内蔵メモリー	約16Mバイト	インターネットウェブの閲覧	
PCとの連携	オプション	サーバーにメールを残す	
PIAFS対応		添付ファイル受信	
漢字の送受信	1	画像添付ファイルの閲覧	
メール返信機能		アドレス帳からの宛先人選択	
ヘッダー受信		メッセージの文字数制限	31KB/件
同報メール送信			

1 データ通信カードを別途購入  
2 ニッケル水素専用充電電池の場合(アルカリ単3では約40H)

Product Showcase

注目の  
新製品

# CASSIOPEIA

# A-51V



① 左から赤外線通信ポート、データ通信コネクタ



② PCカードスロット



③ AC電源入力、シリアルポート



ウィンドウズCEを採用したカシオペアでは、インターネットでの電子メールの送受信をサポートしているが、より便利に使おうとするとカシオペアに付属のCD-ROMからファイル添付対応電子メール「カシオインターネットメール」をインストールする必要がある。

これを利用すれば、MIME対応の添付ファイルを扱うことができ、MIME形式で送られてきたグラフィックファイルをWWWブラウザソフトで見られるようになる。また、この新製品「A-51V」は80MIPSの高性能CPU「SH-3」(80MHz)採用により、処理速度がアップした。

発売元 : カシオ計算機㈱  
標準価格 : 88,000円  
実勢価格 : 取材時未発売  
問い合わせ : 03-3347-0874  
URL : <http://www.casio.co.jp/hpc/>  
寸法 : 185(W) x 94(W) x 24.5(H)mm  
重量 : 約390g

内蔵モデム	なし	バッテリー駆動時間	約15H 2
内蔵メモリー	8MB	インターネットウェブの閲覧	
PCとの連携		サーバーにメールを残す	
PIAFS対応	1	添付ファイル受信	3
漢字の送受信		画像添付ファイルの閲覧	
メール返信機能		アドレス帳からの宛先人選択	
ヘッダー受信		メッセージの文字数制限	31KB/件
同報メール送信			

1 データ通信カードを別途購入  
2 リチウムイオン充電電池の場合(アルカリ単3では約25H)  
3 CD-ROM収録の「カシオインターネットメール」を使用

\*写真はすべてA-51

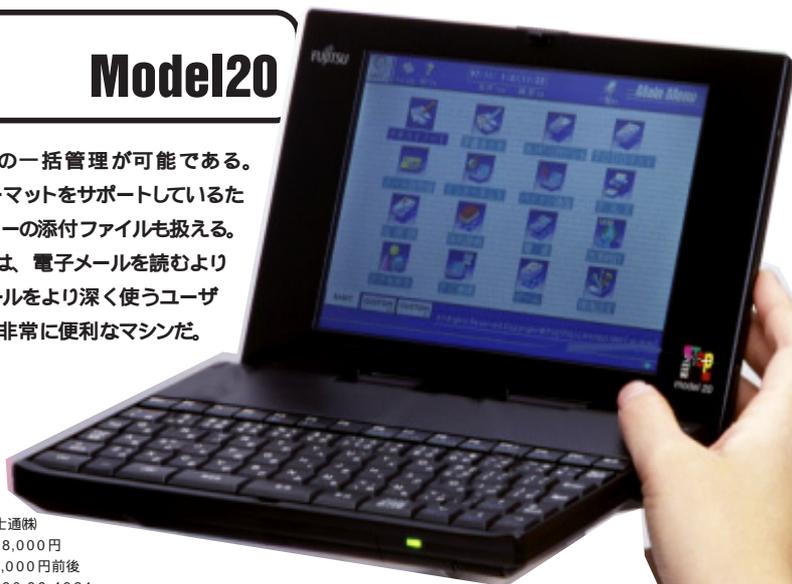
注目の  
新製品

# INTERTop

# Model20

外觀が今まで紹介してきたPDAよりも大きいですが、キーボードが扱いやすいサイズなので、通常のノートパソコンのように電子メールを普通に書ける。ここまでキーボードが大きいと長い文章を書いても打ちやすい。そのほか、インターネットだけでなく、ニフティサーブの電子メールを一括して送受信できるのが便利だ。このため、同じ電子メールでニフティサーブとインターネット

電子メールの一括管理が可能である。MIMEフォーマットをサポートしているため、バイナリーの添付ファイルも扱える。INTERTopは、電子メールを読むよりも、電子メールをより深く使うユーザーにとっては非常に便利なマシンだ。



① 赤外線通信ポート



② 左からシリアルポート、AC電源入力、モジュラー端子

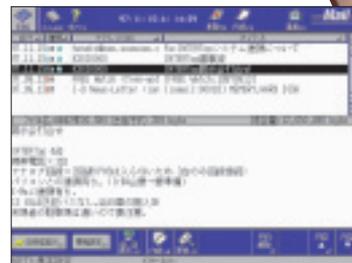


③ PCカードスロット

発売元 : 富士通  
標準価格 : 128,000円  
実勢価格 : 97,000円前後  
問い合わせ : 0120-89-4321  
URL : <http://www.intertop.ne.jp/>  
寸法 : 210(W)X149.5(D)X29(H)mm  
重量 : 約750g

内蔵モデム	33.6Kbps	バッテリー駆動時間	約2.5-3H
内蔵メモリー	約4MB 1	インターネットウェブの閲覧	
PCとの連携		サーバーにメールを残す	
PIAFS対応		添付ファイル受信	
漢字の送受信		画像添付ファイルの閲覧	
メール返信機能		アドレス帳からの宛先選択	
ヘッダー受信	x	メッセージの文字数制限	2
同報メール送信			

1 フラッシュメモリー12MB  
2 推奨200KB



## すぐにインターネットが使える モバイルパッケージ商品

### Libretto Mobile Pack

NTTドコモでは、携帯電話でのデータ通信をサポートするために、携帯電話用のモデムや通信ソフトを一括パッケージにしたキットを発売している。このLibrettoのキット（販売価格228,000円）では、デジタル携帯電話用の9600bpsのモデムカード、携帯電話とモデムを接続するケーブル、信乃助95 for NTT DoCo-

Moという通信ソフトが付いている。この組み合わせなら、ウィンドウズ95対応コンピュータであればどの機種でもOKだ。

このほか、NTTドコモではシャープのザウルスと連携できるキット、モデムカード(PCMCIA)ではなくシリアル端子でパソコンやPDAと接続するモデムキットもリリースしている。

電子メールの送受信は、PDAよりもモバイル用のノートパソコンのほうが使いやすいのは事実だ。パソコンなら電子メールだけでなく、さまざまなアプリケーションが使えるために、企業ユーザーだけでなく、個人ユーザーにとっても魅力がある。

### 10円メールとは

NTTドコモでは、電話サービスだけでなく、さまざまなデータ通信サービスも用意している。特に、10円メールは電子メールに特化したサービスだ。

10円メールは、マスターネットとNTTドコモが開発したサービスで、10円で電子メールが送受信できる。このサービスでは、携帯電話の通信料が不要で、1回あたり10円の使用料を支払うだけで、電子メールの容量は2キロバイト(日本語で1000文字)までとなっている。マスターネットに入会する必要はあるが(入会金無料)、全国どこからでも10円で電子メールが送受信できるのは安い(NTTドコモの9600bps対応デジタル携帯のみ)。通信ソフトは、専用の「10円メールマスタ」を使用する。



携帯電話は別売り

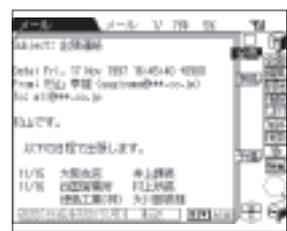
注目の  
新製品



# PINOCCHIO ALA-P132



ピノキオは、PHSの32Kデータ通信のPIAFSを内蔵したPDAだ。つまり、データ通信もPHSでの電話もこれ1台で行うことができる。ピノキオの電子メールソフトではMIME形式がサポートされているため、添付ファイルの送受信も行える。手書き文字の電子メールをイメージに変換してメールに添付することができる。このほか、インターネットのWWWブラウザも内蔵しているが、テキストにしか対応していない。



発売元 : 松下電器産業株  
標準価格 : 79,800円  
実勢価格 : 取材時未発売  
問い合わせ : 0120-878-365  
URL : <http://www.pcc.panasonic.co.jp/pinocchio/>  
寸法 : 160(W) x 80(D) x 21(H)mm  
重量 : 約250g



内蔵モデム	2400bps	バッテリー駆動時間	約300H 1
内蔵メモリー	1MB	インターネットウェブの閲覧	2
PCとの連携	オプション	サーバーにメールを残す	
PIAFS対応		添付ファイル受信	
漢字の送受信		画像添付ファイルの閲覧	bmp
メール返信機能		アドレス帳からの宛先人選択	
ヘッダー受信	x	メッセージの文字数制限	12KB or 500行
同報メール送信			

1 連続待ち受け時間(連続通話時間9H)  
2 テキスト及び gif 形式の静止画

Product Showcase

注目の  
新製品

# DataScope DS-320

IBMの超小型カード型PCのチップカードとPHSを合体させたのがこの製品。便利なのは、データスコープをPCMCIAカードとしてノートパソコンに差し込み、PIFAS端末としてデータ通信を行えるという点だ。電子メール機能としては、最低限のテキストの送受信しかできない。また、文章を入力するにはやりにくいため、定型メール送信する機能が用意されている。このPHS機能は、DDIポケットを採用しているため、DDIポケットがサービスしているPHS文字送信システムの「Pメール」も利用できる。

発売元 : 京セラ株  
標準価格 : オープンプライス  
実勢価格 : 取材時未発売  
問い合わせ : 045-943-6138  
URL : <http://www.ijinet.or.jp/kyocera/>  
寸法 : 55(W) x 27(D) x 108(H)mm  
重量 : 約175g

内蔵モデム	32Kbps 1	バッテリー駆動時間	約500H 3
内蔵メモリー	2	インターネットウェブの閲覧	
PCとの連携	オプション	サーバーにメールを残す	
PIAFS対応		添付ファイル受信	
漢字の送受信		画像添付ファイルの閲覧	x
メール返信機能		アドレス帳からの宛先人選択	x
ヘッダー受信		メッセージの文字数制限	なし
同報メール送信			

1 Data32対応  
2 ユーザー領域約100KB、データ領域約150KB  
3 連続待ち受け時間(連続通話時間音声約5H、データ通信約3H)





# GENIO

# PCV100

DDIポケットのPHSを内蔵している。このため、PIAFSでの32Kbps通信が可能。インターネットの電子メールは、東芝が運営しているインターネットプロバイダーの「infoPepper」を経由して行く。MIME形式をサポートしているため、添付ファイルの受信は行えるが、ビューアソフトを内蔵していないので、グラフィックなどは見ることができない。文字を入力するのは手書き認識だが、ひらがなであれば結構認識率が高い。長文の入力は疲れるが、短い文章なら十分使える。



① 左からシリアルポート、赤外線通信ポート、充電器入力

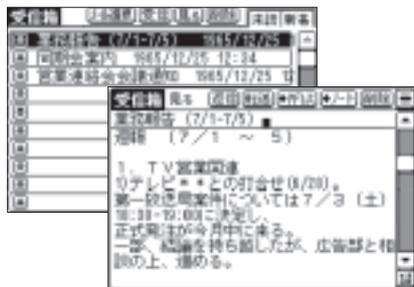


② スマートメディアスロット

発売元 : ㈱東芝  
 標準価格 : オープンプライス  
 実勢価格 : 50,000円前後  
 問い合わせ : 03-3457-2612  
 URL : <http://www2.toshiba.co.jp/genio/>  
 寸法 : 155(W)×76.5(D)×20.3(H)mm  
 重量 : 約220g

内蔵モデム	14.4Kbps	バッテリー駆動時間	約200H 2
内蔵メモリー	1	インターネットウェブの閲覧	
PCとの連携	オプション	サーバーにメールを残す	
PIAFS対応		添付ファイル受信	
漢字の送受信		画像添付ファイルの閲覧	×
メール返信機能		アドレス帳からの宛先人選択	
ヘッダー受信	×	メッセージの文字数制限	あり
回報メール送信			

1 ユーザー領域512KB、データ領域512KB  
 2 連続待ち受け時間(連続通話時間音約4.5H、データ通信約2H)



③ これは従来機種種のDS-110



データスコープはノートパソコンのPCMCIAスロットに直接差し込み、データ共有や32Kbpsのデータ通信が手軽にできる。

### PHS 一体型 PDA 購入時の注意

PHS 一体型製品を購入する場合、最初に PHS 業者との契約を済ませなければならない。大抵は購入するときにお店で契約ができる。ビノキオはNTT パーソナルとの契約になるため、「きやらメール」も同時に申し込めるし、GENIO やデータスコープは DDI ポケットとの契約になる。よって、これらの機種種の購入を考えている場合は、運転免許証やパスポートなどの身分証明書を持って出かけないと二度手間になるので注意が必要だ。



# まだまだある!! 電子メールが使える携帯情報端末

今まで紹介してきたPDAでは、標準機能としてインターネットでの電子メールをサポートしていた。しかし、これ以外にも、パソコン通信での電子メールをサポートしている商品やユーザーが独自に日本語化した製品、オプションソフトによりインターネットの電子メールがサポートされているものなども発売されている。PDAとしてそれぞれが個性を持っているため、電子メール機能に満足がいくなら、これらの製品を選ぶのもいいだろう。

## オプションでも 電子メールが使いたい

PDAとして米国で大ヒットしているのが3Com社のPalm Pilotだ。3.5インチのフロッピーディスク数枚分の大きさで、コンピュータとのデータ連携も非常によく考えられた優れたものだ。Palm Pilotでは、標準では電子メール機能はサポートされていないが、各社がアプリケーションを開発しており、その中に電子メールソフトも入っている(最近ではWWWブラウザもリリースされている)。Palm Pilotの下部に取り付けられるモデムが3Com社から発売されているため、これを利用すれば、ポケットに入る電子メール機器となる。

日本でも米国でのヒットを受けて、ユーザー自身の手で日本語化が行われている。J-OS Pro(イケショップで発売)というソフトを利用すれば、日本語フォントも入り、何と単漢字変換もサポートされている。

このほかに、オプションソフトによってインターネット電子メールをサポートしている製品としては、アステルのAI-15というPHS融合型PDAがある。この製品では、ロータ

ス・ノートに接続するソフトを利用して、会社のルータ・ノートを經由してインターネットの電子メールが送受信できるようになっている(直接インターネットメールへの接続はサポートしていない)。

## パソコン通信経由で インターネットメールを 送受信する

インターネットでの電子メールをサポート

していない。ほとんどのPDAがパソコン通信を經由したインターネット電子メールの送受信をサポートしている。最近のパソコン通信ホストは、インターネットと接続しているため、これで電子メールをやりとりすることができる。

しかし、パソコン通信を經由したインターネット電子メールには、いろいろと制限がある。インターネット電子メールの特徴である添付ファイルはまったく利用できない。さらに、パソコン通信側で漢字コードを変換してしまうため、インターネットから電子メールを送る側が注意しないと、パソコン通信ではまったく文章が読めないといったことも起こる。このように、パソコン通信での電子メールはインターネット電子メールが普及してきたことを考えると徐々にインターネットへと移行していくのだろう。PDAでもインターネット電子メールが当たり前の時代が来つつある。

Product Showcase

## Palm Pilot

PDAとしては、非常に完成度が高い製品だ。しかし、日本語化はメーカーではなく、ユーザーの手で行われているため、初心者ユーザーには手が出しにくい。電子メールに関しては、Palm Pilotのプロフェッショナル版でサポートされている。パソコン通信の電子メールだけでなく、PPPプロトコルもサポートしているため、インターネットの電子メールも送受信することができる。



発売元 : スリーコム ジャパン(株)  
標準価格 : 59,800円  
実勢価格 : 50,000円前後

## 文豪アルデータ

文豪アルデータは、PDAではなく、ワープロ専用機の発展型。大きさは非常にコンパクトにまとまっており、文章を書くことをメインに考えた製品なのでキーボードもしっかりしている。電子メールに関しては、ニフティサーブやBIGLOBEに対応している。



発売元 : NECホームエレクトロニクス  
標準価格 : 100,000円  
実勢価格 : 89,000円前後

## アステル AI-15

携帯電話キャリアのアステルが発売したPDA「AI-15」は、パソコン通信との電子メール機能がサポートされたものだ。このPDAには、Lotus Notesと連携するオプションソフトが用意されているため、サーバーにあるNotesを經由してインターネット電子メールを送受信することができる。普通のインターネットプロバイダを經由した電子メールは、この製品ではサポートされていない。



発売元 : (株)アステル東京  
標準価格 : 98,000円  
実勢価格 : 60,000円前後

## CALEID

カシオのカレイドは、電子手帳が進化した本体製品だ。本体には、携帯電話もモデムも内蔵していない。このため、通信を行うには、携帯電話アダプターか、モデムを購入する必要がある。電子メール機能はニフティサーブやBIGLOBEなどのパソコン通信ホストをサポートしている。



発売元 : カシオ計算機(株)  
標準価格 : 38,000円  
実勢価格 : 27,000円前後

## TOSHIBA MC-01

東芝のMC-01は、PDAというよりもデータ通信を重視したPHSと言えるだろう。ニフティサーブやBIGLOBEなどのパソコン通信ホストとの電子メールの送受信がサポートされている。逆にPDAとしてのスケジュール帳などの機能は入っていない(電話帳は入っている)。



発売元 : (株)東芝  
標準価格 : オープンプライス  
実勢価格 : 取材時未発売



# 新サービスも続々登場!!

PDAなどで電子メールが重視されていることで、携帯電話やポケットベルのキャリアがさまざまな電子メール向けサービスを開始している。これらを使えば、電子メールを直接PDAやパソコンで受信するのではなく、ポケットベルやPHSで受信できるようになる。このような状況になれば、テキストメディアがさまざまなデジタル機器でサポートされることになり、本来の意味で使いやすい電子メールメディアが誕生するのだろう。



## 携帯端末で電子メールの送受信ができる

携帯電話のサービスを行っているJ-PHONE（東京デジタルホン）では、「Sky Walker」という電子メールサービスを行っている。これは、携帯電話やPHSによるテキストメッセージシステムだ。これを利用して、インターネット電子メールがサポートされている。



現在、Sky Walker機能をサポートしているのは、パイオニア製のDP-211Wだけだが、今後発売されるJ-PHONEの携帯電話にはこの機能が標準で入ってくる予定だ。DP-211Wは、全面が液晶画面になっているために、メニュー画面で文字を入力して電子メールを送ることができる。キーボードや手書き文字認識などが入っていないため長い文章を送るにはちょっと面倒だ。

Sky Walkerは、メッセージを送信したときだけに料金がかかる。さらにインターネット電子メールを利用するには付加料金として、月額1000円が必要になる。面白いのは電子メールアドレスだ。インターネットの場合の電子メールアドレスは、「電話番号@email.sky.cdp.ne.jp（プロバイダー名は東京デジタルホンの場合）」というものを利用する。

## 着信した電子メールをポケベルへ転送

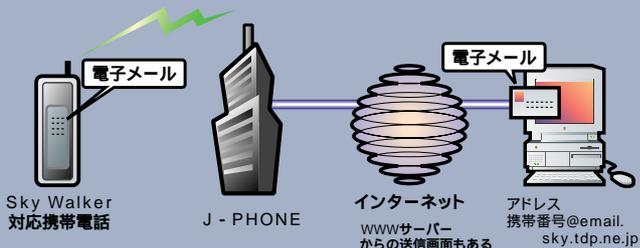
NTTドコモはポケットベルの電子メールサ

ポートを行っている。電子メールのアドレスにポケベルを指定すれば、100バイトの文字が漢字表示のできるインフォネクストに転送される（このサービスを利用できるのはインフォネクストシリーズのみ）。このほか、電子メールの自動転送機能を使うことができる。これは、独自のメールサーバー（UNIX）を持つ会社であれば、利用ができる。NTTドコモで配布している「メール転送ツール」ソフトを使い、メールを転送したいポケベルの番号を出かける前に登録する。これにより、UNIXのフォワード機能で会社のメールアドレスに届いたメールは、事前に登録したポケベルへ自動転送される。

このように、電子メールの基本機能（テキスト送信）を利用すれば、ポケベルやPHSのポケベル機能などとリンクして、さまざまなメディアとリンクしたコミュニケーションが提供される。今後は、インターネットメールを中核として、いろいろなサービスと連携していくのだろう。

### Sky Walkerの電子メールの仕組み

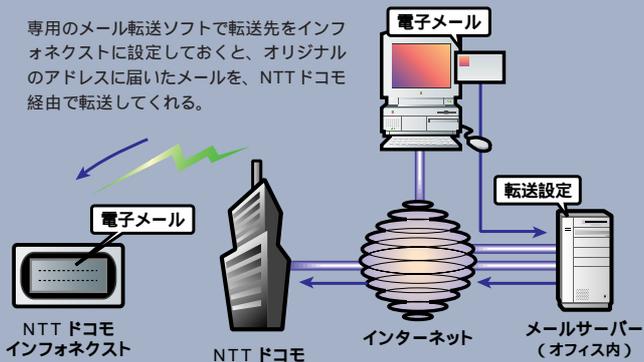
Sky Walker機能のある携帯電話には、それぞれに電話番号を利用したメールアドレスが割り振られる。J-PHONEの専用メールサーバーを経由して携帯電話とのメールのやりとりが行われる。パソコン側は、特別なソフトや意識は必要としない。



携帯電話のメールアドレスは契約しているキャリアによって異なる  
東京デジタルホンの場合は、携帯電話番号@email.sky.tdp.ne.jp

### インフォネクストの電子メール自動転送サービスの仕組み

専用のメール転送ソフトで転送先をインフォネクストに設定しておく、オリジナルのアドレスに届いたメールを、NTTドコモ経由で転送してくれる。



詳細は URL <http://www.nttdocomo.co.jp>



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)